

関西医科大学 広報



関西医科大学総合医療センター(守口市立さつき小学校側から見た完成予想図。詳しくはP10「附属滝井病院リニューアル事業計画進捗状況報告」へ)

附属滝井病院はこの春、 関西医科大学総合医療センターへ

Vol.32

CONTENTS

法人： 理事長年頭所感、賀詞交換会	P.1～
大学： 医学部入学試験のお知らせ・大学院入学試験	P.21～
病院： 医療安全大会	P.23

附属看護専門学校： 学校祭	P.26
卒後臨床研修センター： 初期臨床研修合同説明会	P.27
学会主催報告・学会賞受賞情報	P.29～

理事長年頭所感表明・賀詞交換会



厳かな雰囲気の中、年頭所感発表が行われた

1月4日(月)午後4時から枚方学舎1階加多乃講堂において「理事長年頭所感表明」が行われました。発表の様子は附属滝井病院および香里病院にも同時中継されました。

山下敏夫理事長は、2016年は活路が開ける年になるとしながらも、教学・医療安全・経営いずれの面でも気の緩みが出ないように「不緩(ふかん)=ゆるめず」の精神で臨んでほしい、と聴講する教職員に呼びかけました。

年頭所感発表の後、枚方学舎3階学生食堂において、医学部・法人事務局・附属枚方病院・附属看護専門学校の賀詞交換会が行われました。友田幸一学長は新年の挨拶の中で、2016年の抱負として①国際化の推進、②医学教育改革、③倫理審査体制の再構築を掲げ、実現には法人の経済基盤の安定・上向きが肝要であり、教職員一人ひとりの努力が不可欠であると述べました。

乾杯の挨拶は附属枚方病院病澤田敏院長(常務理事)が務め、今年は外来の再編を実行に移すと発表しました。



賀詞交換会に臨む山下理事長(中央)、新年の挨拶を述べる友田学長(左)、および乾杯の音頭をとる澤田病院長(右)

賀詞交換会(滝井地区)



年頭の挨拶を述べる岩坂病院長

附属滝井病院と天満橋総合クリニックの合同賀詞交換会は、滝井病院6階臨床講堂において行われました。滝井病院岩坂壽二病院長(常務理事)は「総合医療センターの開院やDPC II 群病院への挑戦など、今年は飛躍の年。天満橋総合クリニックと連携し、海外のメディカルツーリスト受け入れも進めたい」と挨拶。天満橋総合クリニック浦上昌也院長は自身のおみくじが大吉だったことに触れつつ「外来強化を推進し、全員にとって良い一年にしたい」と述べ、乾杯しました。

賀詞交換会(香里地区)



新年の挨拶をする高山病院長

香里病院の賀詞交換会は、8階会議室で行われました。冒頭、高山康夫病院長から「DPC対象病院への移行や、訪問看護ステーションの立ち上げなど、それぞれの立場でしっかりやっていき、最終目標として地域の方々役に立つことがゴールです」との年頭挨拶がありました。続いて、廣原淳子副病院長の発声に合わせて乾杯。新たな一年を踏み出しました。

小児麻酔担当診療教授に就任して

麻酔科学講座小児麻酔担当診療教授 大井 由美子



平成28年1月1日付けで、関西医科大学麻酔科学講座小児麻酔担当診療教授を拝命いたしました。新宮興教授のもと、本学の麻酔科学とくに小児麻酔の発展に貢献できるよう、力を尽くす所存でございますので、どうぞよろしくお願い申し上げます。

小児の日帰り麻酔、学生の教育、女医の支援などこれから進めていきたいことに胸が膨らむ一方で、その責任の重さに身が引き締まる思いでもあります。

大学病院での小児麻酔は、分娩直後のハイリスクの極小未熟児から、ごく健康な幼児まで多岐にわたりますので、高度な専門性が求められるのは勿論のこと、周術期の児の安全と快適さも要求されます。これらを実現していくためには、小児外科、小児科、産科を軸とした医療スタッフとの連携が必須であり、より良いコミュニケーションを図って参りたいと存じます。

医学は、具体的にイメージしやすい学問です。医学教育では、学生自身が医学の面白さに気づき、知の探究がいかに楽しいかを知り、更には麻酔に興味を持つように好奇心の芽を育てていきたいと考えています。

臨床研究では、周術期の小児におけるワクチン接種の影響と免疫力について取り組んでおり、昨年は日本麻酔科学会にて最優秀演題賞を受賞しました。引き続き、本学でも取り組んでいきたいと思っています。

三重大学で師事し尊敬しておりました故・宗行万之助名誉教授は、本学麻酔科学講座の初代教授と伺っております。恩師に導かれて辿り着いたような不思議なご縁を感じています。浅学の身ではございますが、新しい環境のもと臨床および教育に一層精励いたす所存でございますので、今後とも何とぞご指導ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

略歴

昭和59年3月	三重大学医学部卒業
昭和59年4月	三重大学医学部大学院入学
昭和59年4月	三重大学医学部麻酔学教室入局
昭和59年5月	三重大学医学部附属病院研修医
昭和60年7月	三重大学医学部麻酔学教室助手
平成2年8月	国立津病院麻酔科開設、転任
平成3年6月	三重大学大学院医学研究科学位取得
平成5年5月	国立津病院麻酔科医長
平成10年7月	国立三重中央病院(現・国立病院機構三重中央医療センター)麻酔科医長
平成11年4月	国立三重病院(現・国立病院機構三重病院)麻酔科開設、転任 麻酔科医長
平成28年1月	関西医科大学麻酔科学講座小児麻酔担当診療教授

第3回関西医科大学連携病院の会

地域医療の更なる連携を目指して—

平成27年10月17日(土)午後5時からリーガロイヤルホテル(大阪)において、「第3回関西医科大学連携病院の会」が開催されました。この会は、地域の医療機関と緊密な医療連携を図り、地域包括ケアシステムの構築を目的に開催されています。本学との連携病院198医療機関のうち117医療機関162名、本学からは山下敏夫理事長や各附属病院長をはじめ67名が参加しました。冒頭、山下理事長の挨拶に続いて第1部の講演会が行われ、「これからの社会保障」と題して自由民主党大阪11区選出衆議院議員佐藤ゆかり氏が、また「地域包括ケアシステムから見た病院医療」と題して厚生労働省医政局地域医療計画課迫井正深課長が講演。引き続き附属枚方病院澤田敏病院長、附属滝井病院岩坂壽二病院長、香里病院高山康夫病院長、および天満橋総合クリニック浦上昌也院長が、それぞれの近況を報告しました。



開催にあたって挨拶をする山下理事長

第2部の懇親会では地域医療センター権雅憲センター長の挨拶に続き、枚方公済病院野原隆司病院長の乾杯の発声があり、病病連携による地域の医療レベル向上と、地域包括ケアシステムの構築に向けた情報交換を行うなど、親睦を深めました。

施設設備整備拡充寄付金の募集

関西医科大学では平成27年度の寄付金として「施設設備整備拡充資金」を募集しております。これは医学・医療技術の進歩に対応して教育・研究・診療の施設設備の整備・拡充を進めるためのものです。

皆様のご支援、ご協力をよろしくお願い申し上げます。

募集要項

1.募集対象	本学学生の保護者、同窓会員、本学関連の個人および法人その他
2.募集金額	1口 100万円 1口未満でも申し受けます。
3.お問い合わせ先	関西医科大学法人事務局募金室 〒573-1010 大阪府枚方市新町2-5-1 TEL:072-804-2146(直通) FAX:072-804-2344

平成27年10月1日から平成27年12月31日までにご寄付いただきました方々のご芳名(五十音順)を掲載させていただきます。ご芳志に対して衷心より感謝申し上げます。



本年度高額寄付者へ感謝状贈呈



平成27年11月19日(木)、本年度本学に対して高額寄付を行ったとして桑原佐代子氏(20回生)へ感謝状が贈呈され、本人のご自宅へ賞状と記念品を持参し、手渡しました。写真は感謝状を手に笑顔の桑原さん。

ハノイ医科大学と学術交流協定を締結

日本とベトナムの医学・医療交流を加速

平成27年11月20日(金)、伊藤誠二副学長がベトナム社会主義共和国を訪問し、ハノイ医科大学と「学術交流協定」を締結しました。1902年創立のハノイ医科大学は、ベトナムの首都・ハノイ市にある最古の大学であり、北ベトナム随一の医療系大学として知られる由緒ある大学。2008年にはベトナムで初めてとなる大学病院を開設するなど、東アジアにおける医学・医療分野のフロント・ランナーとして成長を続けています。

今回の学術交流協定締結によって本学は、歴史と伝統、実績を誇るハノイ医科大学と、教職員だけでなく研究者・学生の相互派遣を行うなど、日越両国の医療技術と人材の交流を活発化。医療・医学分野における国際化・

高度化・複雑化の波に吞まれることなく、互いの医学教育・研究・診療の充実と発展を狙います。



協定書を前に、記念撮影に応じる伊藤副学長(右)

附属滝井病院リニューアル事業計画 進捗状況報告



平成28年5月
附属滝井病院は
関西医科大学
総合医療センター
へ、進化します

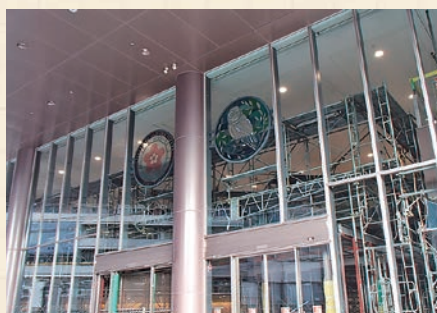
建屋がほぼ完成し、地下道開削と内装工事が進行中

※写真は12月時点の定点写真

リニューアル工事ギャラリー



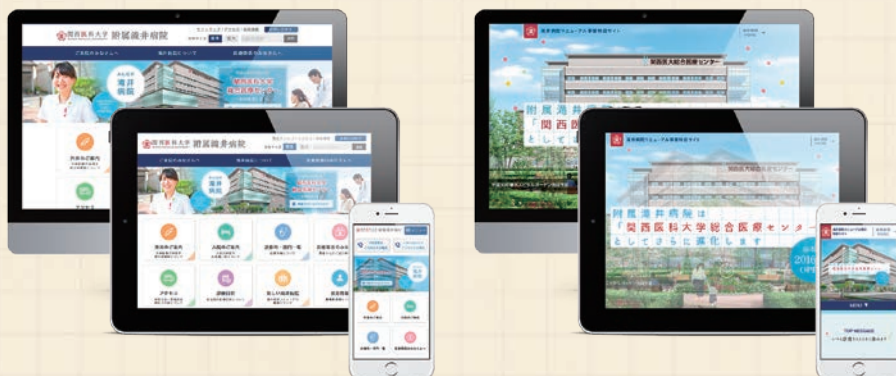
1階エスカレーターの設置



正面玄関に設置されたスタンドグラス

来年5月の新本館オープンまで半年を切り、建築工事はいよいよ大詰めを迎えました。建物自体はほぼ完成し、現在は内装工事が進んでいます。また、エスカレーターの設置や病棟居室の壁紙なども施工中。滝井病院リニューアル事業計画は、今後も無事の完工を目指して進みます。

病院サイトがリニューアルしました



平成27年12月、附属滝井病院のウェブサイトを更新しました。新しいサイトは、パソコンだけでなくスマートフォンやタブレットでも見やすい形に進化。いつでもどこでも滝井病院の情報をチェックできるようになりました。ぜひ一度、ご確認ください。

今号掲載期間の主な出来事をご紹介します (記事掲載はオレンジ太字)

法人	10月1日	事務職内定式		
	10月17日	第3回関西医科大学連携病院の会		
	12月19日	看護職内定式・看護職内定者懇談会		
	10月2日	大学院企画セミナー(第1回)		
	10月3日	ひらかたカラダづくりトライアル		
	10月3日・4日	第56回日本組織細胞化学会総会・学術集会		
	10月5日	解剖体慰霊碑供養		
	10月10日	第27回腎とフリーラジカル研究会		
	10月18日	慈仁会全国懇談会		
	10月20日	パーモント大学Leonard博士来学、大学院講座第717講		
10月22日	国連創設70周年国連デー講演			
10月26日	国際交流セミナー			
10月28日	第2回臨床研究等倫理講習会			
10月30日	大学院企画セミナー(第2回)			
10月31日	ひらかた市民大学2015			
10月31日・11月1日	霜月祭			
11月1日	子ども大学探検隊、大学探検隊			
11月4日	教学懇談会			
11月6日	大学院企画セミナー(第3回)			
大学	11月13日	病態分子イメージングセンター最終成果報告会		
	11月20日	医学部合同新技術説明会		
	11月20日	ハノイ医科大学との学術交流協定締結		
	11月22日	平成28年度医学部推薦入学試験		
	11月25日	第41回実験動物慰霊祭		
	11月27日	科研費審査委員表彰		
	11月28日	枚方産学公連携フォーラム		
	12月17日	国際交流フォーラム		
	12月25日	3Dプリンター説明会		
	病院	10月17日		
11月30日		第12回医療安全大会(枚方・滝井・香里)		

事務職内定式

看護職内定式・内定者懇談会

パーモント大学Leonard博士来学

3Dプリンター説明会

医療安全講習会

附属枚方病院	10月27日	医療安全講習会
	10月29日	EPAに伴うインドネシアの看護師受け入れ
	11月7日	院内コンサート
	11月7日	第2回腎移植患者会
	11月19日	教育講演会
	12月4日	秋季消防訓練
	12月10日	市民公開講座
	12月19日	クリスマスコンサート
附属滝井病院	10月3日	第18回市民公開講座
	10月31日	第2回ミニ市民公開講座
	10月31日	第25回肝臓病教室
	11月7日	世界糖尿病デーフェスタ2015
	11月21日	第3回ミニ市民公開講座
12月19日	クリスマスコンサート	
香里病院	10月3日	市民公開講座
	10月18日	日曜マンモグラフィー検診
	12月5日	クリスマスコンサート
附属看護専門学校	10月3日	学校祭
	10月17日	ホームカミングデー
	10月28日	消防訓練
	11月21日	平成28年度推薦入学試験
卒後臨床 研修センター	10月11日・12日	ACLSプロバイダーコース第2回
	10月23日	看護師復職支援看護技術トレーニング(滝井地区)
	10月30日	看護師復職支援看護技術トレーニング(枚方地区)
	11月13日・14日	臨床研修指導医養成講習会
	11月21日	初期臨床研修合同説明会
	11月28日	看護職教育担当者研修
	12月12日	看護職教育担当者研修
	12月12日・13日	ACLSプロバイダーコース第3回
	12月16日	附属枚方病院研修管理委員会、附属滝井病院研修管理委員会



EPAに伴うインドネシアの看護師受け入れ



附属枚方病院院内コンサート



第2回腎移植患者会



附属滝井病院第18回市民公開講座



附属看護専門学校ホームカミングデー

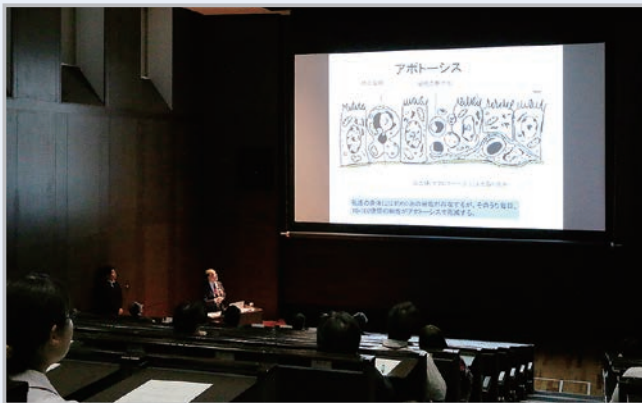
平成27年度大学院企画セミナー

平成27年10月2日(金)、30日(金)、11月6日(金)、平成28年1月8日(金)と、全4回にわたり、「大学院企画セミナー」が開講されました。本セミナーは、本学大学院生を主な対象として例年秋に開かれている連続講座です。

初回は、11月に平成27年度文化勲章を受賞した京都大学名誉教授中西重忠氏を講師に迎え「行動選択の脳内情報処理機構」というテーマで開催しました。中西氏は行動選択において、相反する応答は経路選択の違いから生じているのではないかという仮説を、分子生物学に薬理学の手法を取り入れて証明した過程をわかりやすく解説しました。



熱弁をふるう中西教授(中央奥)



複雑なアポトーシスの機構を解説する長田教授



これまでに出会った多彩な研究者の名を挙げて講演する高井教授

第二回は、大阪大学免疫学フロンティア研究センター特任教授長田重一氏を講師に招聘し、「細胞の死と貪食」とのテーマで開催。生体の中では日々数多くの細胞が産出される一方、不要になった細胞が取り除かれる仕組み(アポトーシス)が機能しています。長田教授は、自ら解明してきたアポトーシスの分子機構、死滅した細胞の貪食に関与する物質などについて詳しく説明するとともに、アポトーシスの機構解明によりがんなどの疾患の治療法や新薬開発の進展が期待されていることにも触れました。

第三回では、神戸大学大学院医学研究科特命教授高井義美氏が、自身の研究成果についてこれまでの人との出会いに焦点を当て「学問の楽しみ—神秘と人との出会い—」を講演。恩師からの独立で研究対象を変更したことや、ノーベル賞受賞者をはじめとする優れた研究者に囲まれ研究を発展させてきたことなど、自らの経験を振り返り、師・良い人(同僚など)・異分野との出会いを大切にしてほしい、と若い研究者に助言を与えました。

新年を迎え、最終回は「細胞接着のダイナミクスと形態形成」をテーマとして理化学研究所特別顧問竹市雅俊氏が講演。これまでの三回の講義に引き続き、医学研究における第一人者から直接見聞きして学ぶことができる特別なプログラムに、多くの受講者が集まりました。

<講義日程および内容一覧>

	日 時	講演内容および講師	場 所
第1回	平成27年10月2日(金) 17:30~	行動選択の脳内情報処理機構 京都大学名誉教授 中西重忠氏	枚方学舎第4講義室
第2回	平成27年10月30日(金) 17:30~	細胞の死と貪食 大阪大学免疫学フロンティア研究センター特任教授 長田重一氏	枚方学舎加多乃講堂
第3回	平成27年11月6日(金) 17:30~	学問の楽しみ—神秘と人との出会い— 神戸大学大学院医学研究科特命教授 高井義美氏	
第4回	平成28年1月8日(金) 17:30~	細胞接着のダイナミクスと形態形成 理化学研究所多細胞システム形成研究センター特別顧問 竹市雅俊氏	

本学職員が平成27年度科研費審査員表彰を受けました

平成27年11月27日(金)午後3時から枚方学舎13階法人応接室において、皮膚科学講座神戸直智准教授が、平成27年度科学研究費助成事業(科研費)の審査において有意義な審査意見を付したとして表彰され、友田幸一学長から表彰状が授与されました。科研費の審査は第1段審査(書面審査)と第2段審査(合議審査)の2段階で実施されており、今年度は約5,500名の第1段審査委員のなかから189名が表彰の対象者となりました。



表彰状を手に微笑む神戸准教授(右)と成果をたたえる友田学長(左)

耳鼻咽喉科・頭頸部外科学講座 神田講師が日本鼻科学会賞を受賞

平成27年10月1日(木)から広島国際会議場で開催された第54回日本鼻科学会総会・学術講演会において、耳鼻咽喉科・頭頸部外科学講座神田晃講師が第22回日本鼻科学会賞を受賞し、同2日(金)午後1時から授賞式と受賞講演が開催されました。

■神田講師コメント

この度、このような名誉ある賞を賜われることができ、大変嬉しく、光栄に思います。このような素晴らしい賞を受賞させて頂いたのは、皆様のお力添えがあったの事と思感謝しています。特に研究活動を今まで続けることが出来たのは、辛抱強く見守って頂いた山下敏夫理事長並びに友田幸一学長のお蔭です(当時の医局事情を考慮すると大変なわがままことをしてしまつたと反省しています)。また、好酸球研究のきっかけを作った当時の上司である川村繁樹先生、初めてピペットの使い方を教えて頂いた池田浩己先生、帰国後にバックアップして頂いた中村晶彦同門会長、ラボ立ち上げ時に力になっていただいた小林良樹講師、そして同門会、医局員の諸先生方に対してこの場を借りて厚く御礼申し上げたいと思います。本受賞に恥じないよう、今後も手綱を緩めることなく、大学に貢献できるよう精進していきたく思います。引き続き、皆様のご指導を賜りますようよろしくお願いいたします。



賞状を手に、記念撮影に応じる神田講師(左)

大学院講座第717講 価値の高いヘルスケアとは？ —バーモント大学から講師を迎えて



平成27年10月20日(火)、本学と学術協定を結ぶ米国バーモント大学のDebra G. B. Leonard博士が来学。カナダとの国境に近いバーモント州バーリントンに位置する同大学は、近接するニューヨーク州の医療をも担う米国ヘルスケアの要所として知られ、本学も毎年2名の海

外臨床実習生を派遣しています。

また、同日午後4時30分からは枚方学舎4階中会議室において、大学院講座第717講が開催され、Leonard博士が講師を務めました。開講に先立ち、友田幸一学長がバーモント大学と本学との関係や、大学で病理・臨床病理部の主任教授を務めるLeonard博士の紹介を交えて挨拶。講演では、博士が癌の分子標的治療や耐性化に関与する遺伝子異常の同定における検索法、次世代シーケンサーを用いた網羅的解析など、最先端の話題を次々に解説しました。参加者にとっては、いかにして価値の高いヘルスケアを提供するか、考えをめぐらす好機となりました。

国際交流セミナー アメリカの医学教育と医療に触れる／国際交流フォーラム 互いの文化を知り理解を深める

平成27年10月26日(月)午後5時15分から枚方学舎2階学生セミナー室2Cにおいて、カリフォルニア大学サンフランシスコ校(UCSF)リハビリテーション科長尾正人准教授を招き、「国際交流セミナー」が開催されました。この日のテーマは『グローバル・ヘルス：米国からみた日本の医療』。友田幸一学長をはじめ、国外臨床実習を経験した学生や参加を検討している学生、教職員ら16名が参加しました。長尾准教授は、サンフランシスコやUCSFの紹介からアメリカの医師育成・医学教育プロセス、カリキュラム内容、民間保険会社の役割に“オバマケア”の概要や問題点まで、幅広く解説。日本の保険医療制度と全く異なるアメリカの実態を理解しようと参加者は熱心に聴講しました。

また、12月17日(木)午後5時30分からは同じく国際交流センターの主催で、枚方学舎3階学生食堂において「第4回国際交流フォーラム」が開催されました。樅の木や星などでクリスマス仕様に飾り付けられた会場には、お寿司やサンドウィッチなどが用意され、普段とは異なる雰囲気に変貌。華やかなムードのなか、友田学長や国際交流センター西山利正センター長のほか海外からの留学生、医学部学生、教職員が多数集まり、交流を深めました。また、高橋寛二副センター長(眼科学講座教授)が司会を務め、留学生が自国の文化や風土を紹介するプレゼンテーションを実施。続いて海外への研究渡航・留学経験のある医師、看護師、医学部学生が、現地での活動について報告しました。



セミナー終了後、記念写真に応じる長尾准教授(前列右から2人目)



国際交流フォーラムでの“commemorative photo”

病態分子イメージングセンター最終成果報告会

平成27年11月13日(金)午前10時から枚方学舎4階中会議室において「病態分子イメージングセンター最終成果報告会」が行われました。病態分子イメージングセンター(MICD)は、平成23年度私立大学戦略的研究基盤形成支援事業の採択を受けて設置された本学の研究施設。最先端の分子イメージングシステムを用いた病態の体系的解明により、課題とする疾患の診断治療法の研究開発に取り組んできました。今回、イメージングセンターが推進してきた全学的なプロジェクトが終了することを祝い、5年間の締めくくりとしての報告会が行われました。

冒頭、友田幸一学長の挨拶に続き、伊藤誠二MICDセンター長が、本プロジェクトのあらましと研究成果を紹介しました。その後、米国国立衛生研究所(NIH、NIDDK) John A. Hanover室長、トロント大学Min Zhuo教授、沖縄科学技術大学院大学山本雅教授(元東京大学医科学研究所所長)三氏を外部評価委員に迎え、3部門全18題の成果を順に報告。最後に上野博夫MICD副センター長が、自身の研究成果とあわせて閉会のことばを述べました。

また、報告会終了後、附属枚方病院13階レストランのぞみにおいて懇親会を開催。報告会の第二部で外部評価委員を務めたZhuo教授が乾杯の音頭をとり、「MICDの役目は終了したが、プロジェクトから得られた成果や知見を引き継ぎ、さらなる研究の発展に尽力してほしい」と述べました。



プログラム中盤にポスタープレゼンテーションの時間も設けられた(1階オープンラウンジ)



友田学長(1列目右から4人目)、伊藤センター長(同右から3人目)ほか、報告会参加者

第2回臨床研究等倫理講習会 公正な臨床研究のために

平成27年10月28日(水)午後6時から附属枚方病院13階講堂において「第2回臨床研究等倫理講習会」が開催されました(附属滝井病院南館2階臨床講堂へも同時中継)。本学では、臨床研究に携わる教職員に、全職種、年1回の集合研修の参加を義務付けており、今回は、臨床試験・再生医療等安全確保法・統計学の3演題でした。

友田幸一学長の挨拶の後、第一部では京都府立医科大学分子標的癌予防医学石川秀樹特任教授が「臨床試験を実施する際に知っておいてほしい疫学知識と法令」をテーマに、臨床試験の特異性やその手順、留意すべき点などを説明。さらに、倫理上追試できない臨床試験から得られたデータは“人類の財産”であり、不正防止の観点からも、検証を可能とするデータセンターの有用性が高まっていると述べました。



第二部の講演の様子

続く第二部では、「再生医療等安全性確保法施行の現状について」として、本学形成外科学講座楠本健司教授が法律制定の背景と概要、今後必要な手続きなどを詳説。本学内でも再生医療の提供を審査する認定再生医療等委員会が設置されたことを紹介しました。

第三部は、金沢大学附属病院先端医療開発センター吉村健一特任教授が、統計学の専門家の立場から講演。臨床試験の結果は恣意的に運用される危険があることを示唆し、特に医療の分野では慎重な姿勢が求められるとコメントしました。

なお、今回未受講の教職員に向けて1~3月に附属病院で録画DVDによる講習会を実施する予定です。



大腸がん予防のための臨床試験を例にとって解説する石川特任教授

平成27年度解剖体慰霊碑供養

平成27年10月5日(月)午前11時から、京都市東山区にある臨済宗建仁寺派大本山建仁寺の塔頭・正伝永源院において、「平成27年度解剖体慰霊碑供養」が執り行われました。友田幸一学長をはじめ、山下敏夫理事長、附属枚方病院澤田敏病院長ら教職員・関係者が参列し、慰霊碑を前に祈りを捧げました。

本学では例年この時季に、代表者が医学の発展に寄与するため自らの遺志と無条件無報酬の篤志によって身体を提供された御霊の供養を行っています。献体者やそのご遺族に対してあらためて感謝の意を示すとともに、一同でご冥福をお祈りしました。



読経が響くなか祈りをささげる参列者

第41回実験動物慰霊祭を執り行いました



実験動物の冥福を祈る友田学長

平成27年11月25日(水)午後1時から枚方学舎1階加多乃講堂において「第41回実験動物慰霊祭」が無宗教形式で執り行われました。はじめに、友田幸一学長、伊藤誠二副学長(研究担当)ほか列席した関係者一同で、実験に供された動物に黙とうを捧げました。続いて、実験動物飼育共同施設上野博夫施設長が慰霊の辞を述べました。その後、午後3時まで加多乃講堂に設けられた献花台には研究者や教職員が次々と実験動物の慰霊に訪れました。

慰霊祭にあたり、本学の教育と医学研究は実験動物の尊い命の犠牲の上に成り立っていることを再度強く認識し、哀悼の意を込めて花を手向けました。

平成27年度慈仁会全国懇談会を開催 全国から保護者の方々が来学されました

平成27年10月18日(日)午前11時から、枚方学舎において、4学年を除く1~6学年の保護者296名が参加し、平成27年度慈仁会全国懇談会が開催されました。加多乃講堂を主会場として行われた総会は各学年の講義室へ同時中継され、楠本健司学生部長、野村昌作教務部長及び慈仁会榊徳子委員長が挨拶。その後はクラスアドバイザー教員とのクラス別懇談会、個別懇談会が行われました。

また、個別懇談会と並行して図書館、シミュレーションセンター、歴史資料室(以上枚方学舎3階)、オープンラウンジ(同1階)、カフェテリア(同4階)の見学会を開催。併せて本学の副章をデザインしたバッジや学舎の絵

葉書など大学関連グッズの販売も行われ、全国から訪れた保護者で賑わいました。

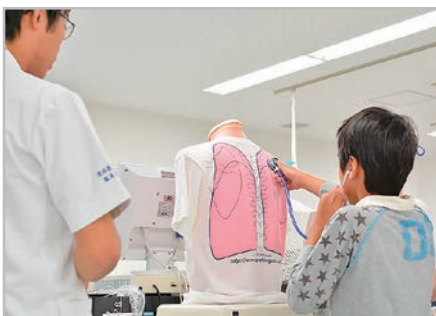
なお、4学年の懇談会は11月21日(土)に開催されました。



挨拶する楠本学生部長

子ども大学探検隊を開催 ホンモノの医学実習を体験してみよう

平成27年11月1日(日)午後1時30分から枚方学舎3階シミュレーションセンターにおいて、枚方市内の小学生対象「子ども大学探検隊」と中学・高校生対象「大学探検隊」が、両事業



呼吸音シミュレータを体験する参加者

定員30名として同時開催されました。これは『学園都市ひらかた推進協議会』が進める、施設見学・講義体験事業のひとつ。

冒頭友田幸一学長の挨拶後、参加者は3グループに分かれて医学教育シミュレータを体験。聴診器で自分の心音やシミュレータが発する喘息の呼吸音を聴診したり、赤ちゃんのシミュレータ人形で胸骨圧迫やバッグバルブマスクを用いた蘇生を練習したりと、参加者は楽しみながらも真剣に取り組んでいました。また、チューター役の本学学生が街中で突然倒れた人を演じ、AEDを用いてBLS(一次救命処置)を体験するミニコーナーも用意。本番さながらの実演にイベントは盛り上がりました。

最後は参加者一人ひとりに友田学長から修了証が手渡され、忘れられない体験となった様子でした。

枚方産学公連携フォーラム さらなる技術革新、経営革新をめざして

平成27年11月28日(土)午後3時から、輝きプラザきらら枚方市地域活性化支援センター7階大研修室において「産学公連携フォーラム」が開かれました。11回目を迎えるこの催しは、枚方市内の企業や経営団体、大学、行政間で資源の相互利用をはかり、技術革新や経営革新の方策を見出す目的で開催されています。

今回は「世界に通じる新産業創造都市をめざして！共に手をつなごう、世界へ、未来へ。」をテーマに掲げ、基調講演の講師には大阪大学大学院基礎工学研究科石黒浩教授を迎えました。本学は会場でパネル展示を行ったほか、形成外科学講座森本尚樹講師が「質の高い乳房再建手術を目指して」のテーマで発表を担当しました。

森本講師は、乳房の再建を自家組織移植、インプラント挿入、幹細胞移植、脂肪注入の4つの方法に分けて解説。それぞれのメリット・デメリットを説明するとともに、臨床実験の準備段階にある自動幹細胞抽出機や坂本設計技術開発研究所と共同開発中の3D計測器など、最新の技術にも言及しました。



本学での症例を用いて解説する森本講師

平成27年度ウォーキングイベントに参加 京阪本線枚方市駅から香里園駅まで



枚方市駅前を元気よく歩く友田学長ほか

平成27年10月3日(土)午前9時30分から、平成27年度健康医療都市ひらかたコンソーシアム連携事業として「ひらかたカラダづくりトライアル～エンジョイトライ～」が開催され、友田幸一学長をはじめとする本学教

職員5名が参加しました。これは、枚方市民と市内に在学・在勤する人を対象としたイベントで、京阪本線に沿って全7回7つのコースで実施。今回は第1回目で、枚方市駅から香里園駅までの7.2キロのコースを歩きました。

当日は天候にも恵まれ、枚方市役所前の広場で行われた出発式の後、ゴールの香里園駅を目指して元気よく出発。それぞれが自分に合ったペースでウォーキングを楽しみました。

「ひらかた市民大学2015」開催 市内6大学との連携講座

平成27年10月31日(土)午後3時から枚方学舎4階中会議室において、今年度3回目となる「ひらかた市民大学2015」が開催されました。これは、枚方市が市内の6大学と提携して、それぞれの大学の専門的な知識・情報を学習する場を提供し、生涯学習の機会提供と生きがいの増進を図ることを目的で開催されるもの。今回は本学が担当しました。

当日は形成外科学講座楠本健司教授が「顔の老化とアンチエイジング～ヒフから顔のかたちの変化に対応して～」をテーマに講演。加齢による皮膚の変化や、老化に対して

行われる医療、加齢による変化を少しでも遅らせるための日ごろのお手入れなど、分かりやすく解説しました。

参加した66名の市民は“老化”を自身や家族の問題として捉え、興味深く熱心に聴き入っていました。



楠本教授(中央奥)の話に聴き入る参加者

医学部合同 新技術説明会

平成27年11月20日(金)国立研究開発法人科学技術振興



発表に臨む神田講師

機構(JST)東京本部別館ホール(東京・市ヶ谷)において「医学部合同新技術説明会」が開催されました。本学からは、耳鼻咽喉科・頭頸部外科学講座神田晃講師が出演し、「マウス上・下気道抵抗同

時測定装置を用いた新薬の評価法」について発表しました。

この説明会は、未公開特許を含む大学発のライセンス・共同研究可能な技術を発明者自身が発表することで、実用化に向けた開発の実施を担う、もしくは共同研究のパートナー企業などを募ることを目的としたもの。今回は全国から10校の国公私立大学医学部・医科大学が参加しました。

企業・研究機関関係の聴講者は約150名にのぼり、説明会への関心の高さがうかがえました。

本学医学教育をレベルアップ 「教育医長制度」「医学教育センター」

本学は、医学部学生への指導をハンドリングする「教育医長」（委員長・野村昌作教務部長）を臨床系講座に一人置く「教育医長制度」を設けるとともに、医学教育の充実・発展のために「医学教育センター」（センター長・木下洋学長特命教授）を設置しています。教育医長や医学教育センターは、2013年から刷新された「6年一貫教育カリキュラム」の導入と実践、“見学型臨床実



医学教育ワークショップの様子

習”から“診療参加型臨床実習”への改革に取り組みました。他にも、臨床実習時に学生が常に携帯する本学独自のClinical Clerkship Recordの作成や、看護師も含めた360度評価の導入・展開を実現。医学生の早期体験実習やエスコート実習、看護実習、臨床実習などを行う際の身だしなみ・言葉遣い・立ち居振る舞いに至るまで、臨床現場での指導を徹底するなど、『慈仁心鏡』を実践できる良医の育成に邁進しています。

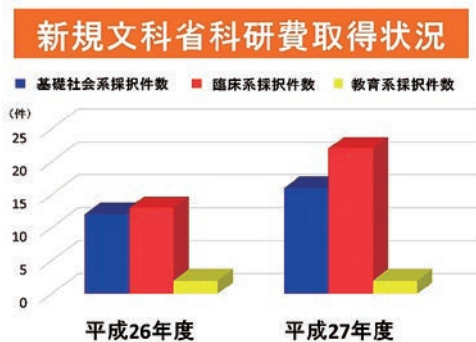
今後は、これまで取り組んできた内容をさらに充実・発展させるとともに、ますます国際化・高度化・複雑化する医学教育・医療技術へのアップデートを推進。本学医学教育の国際認証評価への対応はもちろん、医学教育モデルコアカリキュラムに準拠し、アウトカム基盤型への本学医学教育体制改修を進めます。さらに教育体制の整備だけにとどまらず、“教える側”の意識改革も一段と加速させ、“5つ星の私立医科大学”を実現するべく取り組みます。

関西医科大学研究力強化のための臨床系21講座「研究医長」活動

本学では、平成26年6月から研究力強化を目指して臨床系21講座ごとに“研究医長”を選出し、様々な活動を行う「研究医長」制度を整備しています。また、毎月1回研究医長会議を開催し、本学の研究活動の活性化について真摯に議論を蓄積。本稿では、本年度の研究医長会議の主な活動について報告します。

1. 臨床系講座科研費の採択率向上策

研究医長が各講座推薦の科研費計画調書を回読し、研究計画などについて具体的なアドバイスを行った結果、平成27年度の臨床新規採択件数は前年度比で9件増となりました。



2. 「臨床系研究セミナー」

毎月2講座ずつ、各講座の若手研究者が研究内容を発表しています。他講座の研究内容を共有することで、単

なる研究発表に留まらない研究者同士の連携を図る場を目指しています。

活動内容

1. 科研費の採択率向上
2. 臨床系研究セミナー
3. 研究環境の改善
4. 講演会の開催

■来年度の目標

これまで2年間の実績を踏まえて……

1. 臨床系講座間の共同研究、基礎－臨床系講座間のトランスレーショナル研究を推進するために、年度初めに研究医長と研究トークランチの研究代表者（基礎系講座）とのリトリートを実施。研究活動のマッチングを行います。これらの包括的な取り組みにより、次年度以降の臨床系講座の科研費申請件数、採択率の向上を目指します。
2. 臨床系総合研究施設を活用して、領域別共同研究やトランスレーショナル研究を実施します。また、実際の研究にあたっては、大学院生や若手研究者の指導体制、支援体制を構築。平成29年度以降に大型競争的資金の獲得を目指します。

2015年度霜月祭「CURIOSITY」



天候にもめぐまれた今年度の霜月祭。テーマは「CURIOSITY」。

平成27年10月31日(土)、11月1日(日)の両日、枚方学舎各所において「2015年度 霜月祭」が開催されました。今年の霜月祭は、初日の午前10時、霜月祭実行委員会によるステージパフォーマンスで開幕。2日間にわたって大喜利、ぬるぬる相撲、バナナ大食い選手権などの個性的なステージ企画が展開されたほか、屋内には写真展、お呈茶、医科大学ならではの健康チェック・AED体験のコーナーなども設けられました。また、加多乃講堂では、ダンスやフォークソング・軽音楽部の演奏が披露され、日ごろ講義で使用されるときとは違った雰囲気に包まれました。

大学のクラブや留学生のグループが出店した模擬店には、学生のみならず教職員、近隣の市民が列を作り、大変なにぎわいをみせていました。



人気の店舗には行列が(中庭)



写真部による展示(2階学生セミナー室2B)



医療関連展示・体験ブースを設けた「医学博」(1階オープンラウンジ)



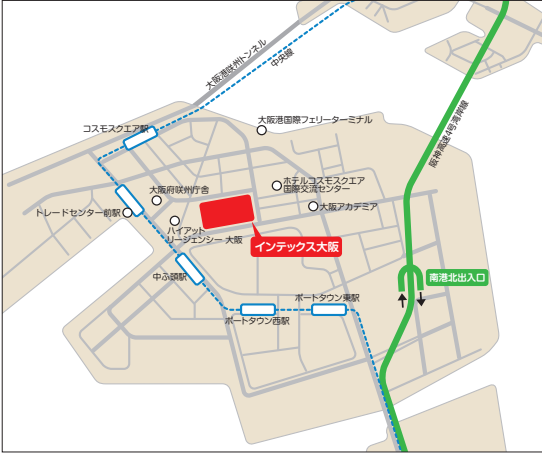
軽音楽部ライブの様子(加多乃講堂)

医学部入学試験のお知らせ

一般入試(前期)

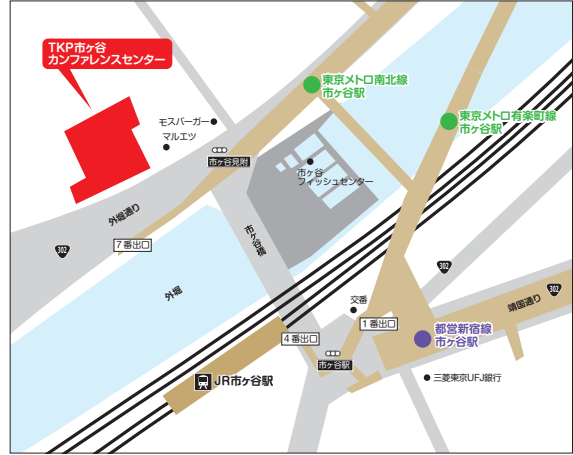
平成28年度一般入学試験(前期)第1次試験は、1月30日(土)午前9時から大阪・東京・名古屋・福岡の4会場で行われます。

大阪会場 インテックス大阪6号館



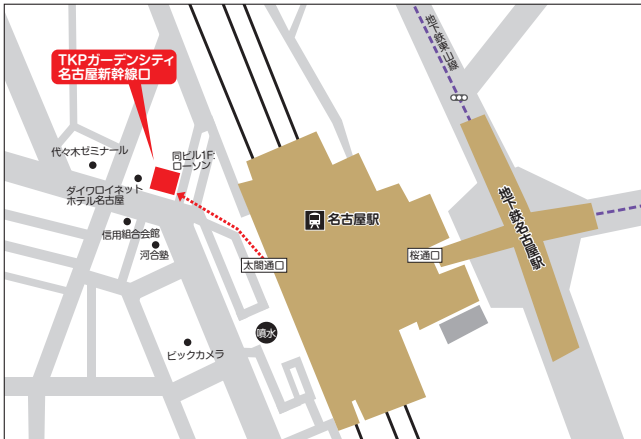
住所：大阪市住之江区南港北1-5-102
 ・南港ポートタウン線「中ふ頭駅」から西ゲートまで徒歩約5分
 ※東ゲートは閉鎖されていますので、西ゲートから入場してください

東京会場 TKP 市ヶ谷カンファレンスセンター



住所：東京都新宿区市谷八幡町8番地TKP市ヶ谷ビル
 ・JR中央本線「市ヶ谷駅」から徒歩約2分
 ・東京メトロ南北線、有楽町線「市ヶ谷駅」7番出口から徒歩約1分、4番出口から徒歩約2分
 ・都営地下鉄新宿線「市ヶ谷駅」4番出口から徒歩約2分

名古屋会場 TKPガーデンシティ名古屋新幹線口



住所：愛知県名古屋市中村区椿町1-16 井門名古屋ビル
 ・JR、近鉄、名鉄「名古屋駅」、太閤通口から徒歩約1分
 ・地下鉄「名古屋駅」から徒歩約3分

福岡会場 南近代ビル



住所：福岡県福岡市博多区博多駅南4-2-10
 ・JR「博多駅」筑紫口から徒歩約15分
 ・「博多駅バスターミナル」西鉄バス13番のりばから〈8〉〈17〉〈29〉〈40〉〈44〉〈45〉番系統乗車約5分「山王公園前」下車すぐ
 ・福岡市営地下鉄空港線「東比恵駅」から徒歩約10分

センター利用入試

平成27年度センター利用入学試験1次試験は、1月16日(土)・17日(日)に大学入試センター試験各試験場において行われました。

一般入学試験(前期)、センター利用入学試験第1次試験 合格者発表

日時：平成28年2月10日(水) 場所：本学の方学舎エントランスホール(掲示)
 合格者の受験番号は、本学ホームページ(<http://www.kmu.ac.jp/>)でも発表します。
 ※第2次試験(第1次試験合格者のみ)は、本学の方学舎で実施します(詳細は合格者に通知します)。

一般入試(後期)

一般入学試験(後期)の出願期間が間もなく始まります。
 また、第1次試験は3月5日(土)午前9時から本学枚方学舎にて行われます。
 出願期間：平成28年2月5日(金)～2月25日(木)必着
 試験会場：本学枚方学舎

まもなく出願受付開始

平成28年度医学部推薦入学試験に10名が合格

11月22日(日)午前9時から、枚方学舎において平成28年度推薦入学試験が実施され、小論文・適性検査・面接(集団・個別)の各試験が行われました。第1次選考

(書類選考)を通過した受験生43名のうち、10名の合格が11月27日(金)正午に発表されました。

研究医養成コース 未来のノーベル賞受賞者を育てたい

12月1日(火)から、高い研究マインドを備えた研究医を育成するための「研究医養成コース」の申請を募りました。研究医養成コースとは、将来基礎医学研究に携わりたい学生を募り、特別なカリキュラムを履修するもの。対象学生は、本学と奈良県立医科大学・大阪医科大学・兵庫医科大学の提携4大学が合同で行う“研究医養

成コースコンソーシアム合宿”に参加できたり、一定の条件をクリアすることで返済が免除される特別な奨学金を受けられたりと、様々な面で研究医となるためのサポートを受けられます。平成27年度の募集は終了しましたが、本学では将来のノーベル賞受賞者や優れた基礎医学研究者を育てるべく、今後も本コースの充実を図ります。

【研究医養成コース募集要項(平成27年度)】

〔募集人員〕

・4名

〔申請資格〕

・第2学年で「研究マインド育成プログラム」の参加者

〔選抜方法〕

- ・第一次審査：申請書類、公開講演会などを総合的に判定して実施
- ・第二次審査：全学教授会による審査

大学院入学試験 前期入学試験・論文博士語学試験実施

9月5日(土)午前9時30分から、枚方学舎において平成28年度前期大学院博士課程入学試験と論文博士語学試験を実施。この日行われた外国語試験と研究分野別試験の結果により、10月14日(水)に合格者を発表しまし

た。大学院博士課程入試では20名(社会人特別学生2名、外国人特別学生1名を含む)が、論文博士語学試験では7名が受験し、それぞれ全員が合格しました。

【後期大学院博士課程入学試験】

〔募集定員〕

・医科学専攻 計50名(前期・後期の合計)

〔願書受付期間〕

・平成28年1月6日(水)～1月27日(水)
 ※郵送する場合は、受付期間内に必着

〔選抜方法〕

・外国語(英語)筆記試験(午前9時30分～正午)
 ・研究分野別試験(午後)

〔実施期日〕

・平成28年2月6日(土)

〔試験会場〕

・外国語(英語)筆記試験：枚方学舎1階「試験・実習室」
 ・研究分野別試験：当日通知

〔合格発表日〕

・平成28年2月18日(木)

※詳細は募集要項、またはホームページをご参照ください

病 院

第12回医療安全大会開催

平成27年11月30日(月)午後5時30分から附属枚方病院13階講堂・合同カンファレンスルーム、附属滝井病院南館2階臨床講堂、香里病院8階第1・第2会議室の3病院4会場を結び、「第12回医療安全大会」が開催されました。枚方病院、滝井病院、香里病院でそれぞれ、282名、161名、80名が参加し、計523名が聴講しました。

医療安全管理センター神崎秀陽センター長司会のもと、挨拶に立った山下敏夫理事長は、日ごろ医療安全に

努める職員に感謝の意を示すとともに、他機関での医療過誤事案や特定機能病院の医療安全に関する制度見直しに触れ、「この機会に一層安全意識を高めてほしい」と呼びかけました。

また、この日は3病院から下記の5名が、実例に基づいた発表を行いました。発表の後には質疑応答の時間が設けられ、他院の事例を自分たちの職場における安全性向上に役立てようと積極的に質問する姿が見られました。

●当日の発表プログラム

第一部 <枚方病院>座長：医療安全管理部 宮崎 浩彰 副部長			
「ほんとうに怖い抗癌剤血管外漏出～当科での一例～」	血液腫瘍内科	藤田 真也 助教	
「附属枚方病院のインフルエンザ対策」	感染制御部	宮良 高雄 部長	
第二部 <滝井病院>座長：医療安全管理部 岩瀬 正顕 部長			
「抗菌薬の届出制の現状と課題」	消化管外科	山田 正法 診療講師	
「ICU増床に向けて安全に業務を遂行するための業務改善」	看護部	河田裕美子 副師長	
第三部 <香里病院>座長：医療安全管理部 廣原 淳子 部長			
「急変時対応～部門をこえたシミュレーション研修～」	看護部	喜 有紀 副師長	



3病院を中継して行われた(枚方病院13階講堂の様子)

附属枚方病院

附属枚方病院の無痛分娩体制を強化

もっと、妊産婦にやさしい病院へ

平成27年9月、附属枚方病院は産科麻酔の専門医として中畑克俊病院准教授を迎え、出産時の痛みを和らげて妊産婦の負担を軽減する「無痛分娩」の受け入れ体制が強化されました。日本では数パーセント程度にとどまっている無痛分娩ですが、欧米諸国では経膈分娩の鎮痛法としてスタンダードな方法。枚方病院はこの体制強化によって、妊産婦が安心して子どもを産める病院として、さらに進化しました。

■中畑講師挨拶

「痛みの少ないお産を希望し、無痛分娩を選択する産婦が次第に増えています。『痛みから解放されたい』という産婦の願いは、日常のあらゆる快適性が求められる現代社会においてむしろ自然なことです。また、海外の先進諸国では医学的見地からも、出産痛の緩和が産婦の正当な権利であると広く受け入れられています。

とはいえ、安全で質の高い無痛分娩を実現する上で麻酔科医の知識と技術は不可欠。突発的に発生する出産前後の緊急事態へ迅速に対応するためにも、周産期医療チームへの麻酔科医の意欲的な参加が望まれます。こうした背景を受けて附属枚方病院総合周産期母子医療センターでは、産科麻酔を志向する麻酔科医がチームを組み、無痛分娩や帝王切開術などの麻酔を行っています」

附属枚方病院 麻酔科(総合周産期母子医療センター)病院准教授 中畑 克俊

附属枚方病院

附属枚方病院に「腎センター」開設

垣根を超えて、患者さんのために一

平成27年9月1日(火)付で、附属枚方病院に「腎センター」が開設されました。センター長は腎泌尿器外科松田公志部長(腎泌尿器外科学講座教授)が務め、枚方病院だけでなく幅広い医療機関・関係者と連携して、慢性腎不全患者さんの診療に取り組んでいます。

■センター長挨拶

「この度、増加する慢性腎不全(CKD)患者さんの診療機能を向上させるために「腎センター」を開設いたしました。CKDは命に関わる重要な疾患であり、かつ原因となる疾患は様々で、さらに合併症を伴うことも多い病気です。こうした状況に対応するためには、多くの診療科・部署の連携が必要であると考えています。

腎センターでは、腎臓内科医、腎泌尿器外科医、糖尿病専門医、循環器内科医、健康科学センター、更に、看護師、管理栄養士、薬剤師、運動療法士などが連携し、CKD患者さんの診療にあたります。加えて、腎不全の予防から腎移植・がん治療にいたるまで、多くの専門科と職種が連携して、“全腎的”な診療や支援を提供いたします。また、かかりつけ医や関連病院とも密接に協力したいと考えております。皆さんのご理解・ご協力のほどを宜しくお願いいたします」。

附属枚方病院 腎センター センター長 松田 公志

附属枚方病院

枚方地区災害訓練

災害時も“信頼できる病院”を目指して

平成27年10月17日(土)、附属枚方病院および枚方学舎において震度6強の地震が発生したとの想定で、災害訓練が実施されました。午前9時、院内に地震発生との放送が流れて対策本部が立ち上げられると、情報の集積と指示・連絡が始まりました。院内各所でトリアージポスト^{*}とトリアージの分類(区分)に則した、赤・黄・緑・黒4つの治療ゾーン設営がスタート。約1時間後、各ゾーンで受け入れ体制が整うと次々と傷病者が送り込まれ、医師・看護師が救護の訓練にあたりました。

終了後の全体反省会では、ゾーンごとに反省点や今後の課題を発表。「迅速に対処できた」「リーダーの指示が的確であった」などの感想に加え、トリアージポストを経由せずに搬入された傷病者がいたこと、ライフラインが不通となった場合の連絡手段の確保、傷病者収容スペースの問題などについて意見が挙げられ、訓練終了後も各ゾーンで非常事態を見据えた建設的な議論が行われたことがうかがえました。最後に、枚方病院澤田敏病院長は「訓練の徹底や日々の意識づけで、“災害時にも信頼できる病院”という評価を獲得できるように備えてほしい」と訓示しました。

※トリアージ＝災害時発生現場等において多数の傷病者が同時に発生した場合、緊急度や重症度に応じて傷病者の治療優先順位を決定する手法。トリアージポストは一時的に傷病者が待機し、医師や救急救命士のトリアージを受ける基地を指す。



赤ゾーン(救急救命外来):生死の境にあり、最も緊急度が高い傷病者が運び込まれる。



また、本年は枚方学舎でも災害訓練を実施。非常時に学生や教職員の安全を確保し、速やかな避難誘導を行うための体制づくりに努めました。自衛消防隊に任命された職員が、学舎内のライフラインの供給状況や負傷者の有無など、被災状況を手分けして確認。負傷者は枚方病院へ誘導されました。

附属滝井病院

第10回附属滝井病院災害訓練

日本館では最後の開催

平成27年10月17日(土)午前9時から、附属滝井病院で10回目となる災害訓練が実施されました。今回は初めて、守口保健所管内における広域災害訓練及び情報伝達訓練も併せて実施。滝井病院に加えて附属看護専門学校、各消防組合・消防本部、大阪府立急性期・総合医療センターDMAT、大阪大学高度救命救急センターDMAT、行政機関、摂南総合病院などが参加し、合わせて約150名の体制で訓練に臨みました。

当日は「平成27年10月17日(土)午前8時50分、大規模地震が発生して守口市では震度6弱を観測。近隣地域



真剣な表情で災害訓練に取り組むスタッフ

でも家屋などの倒壊が多数発生し、救急隊により負傷者が次々と当院に搬送され、また独歩による負傷者の来院も多数見込まれる」との想定でスタート。発災後直ちに病院長を本部長とした災害対策本部が立ち上げられ、院内の被災状況やライフライン機能の確認、情報伝達などを実施。発災現場では救急隊による現場トリアージが行われ、病院側は次々と搬送されてくる模擬傷病者を重症度・緊急度に応じたトリアージ後、各ゾーンへの患者搬送や誘導、治療訓練を行いました。

訓練終了後、滝井病院南館2階臨床講堂では反省会を開催。各ゾーンが反省点や評価を共有しました。最後に、滝井病院岩坂壽二病院長は「日頃の備えが大切。これからは気を引き締めて“万が一”に備えてほしい」と訓示し、訓練は無事終了しました。



挨拶する岩坂病院長と、聴き入る参加者

附属滝井病院 **世界糖尿病デーフェスタ2015を開催** 広げよう、ブルーサークルの輪

平成27年11月7日(土)午後1時から附属滝井病院本館6階臨床講堂において、世界糖尿病デー(同年11月14日)の関連イベントとして「世界糖尿病デーフェスタ2015」が開催されました。これは、2006年に国連総会で決議された『糖尿病の全世界的脅威を認知する決議』の趣旨に賛同し、糖尿病のリスクや恐ろしさを啓発するために開催しているもの。3回目となった今年は68名が来場しました。

冒頭、滝井病院内分泌代謝内科野村恵巳子助教の開会挨拶に続き、同循環器内科山本克浩診療部長が「ドキッ！糖尿病と心臓病の危険な関係」を講演しました。また、続いて同健康管理センター久保田真由美健康運動指導士が『明日から使える運動のポイント』を講演。参加者は実際に体を動かしながら熱心に聴講しました。会場には他にも、血圧・体重測定コーナーや血糖測定コーナー、



運営に携わったボランティアスタッフ

インスリン注射体験、糖尿病食の展示、フットケア体験など様々な体験コーナーを設置。糖尿病について改めて考える機会を提供しました。

附属滝井病院 **第25回肝臓病教室** 明日から役立つ知識を獲得

平成27年10月31日(土)午前10時30分から、附属滝井病院6階臨床講堂において「第25回肝臓病教室」が開催され、59名が受講しました。今回は<肝臓とメタボ>を



参加者は講師のわかりやすい説明に聴き入った

テーマに、消化器肝臓内科是枝ちづ医師が『脂肪肝とメタボ・最近の情報』を、健康科学センター久保田真由美健康運動指導士が『明日から役に立つ運動のポイント』を、栄養管理部和田なぎさ管理栄養士が『メタボ改善のための食事』を、それぞれ講演。活発な質疑応答も行われ、充実した内容となりました。また、恒例の健康運動指導士によるストレッチ体操も好評でした。

次回の講演会は、3月12日(土)午後2時から守口文化センターエナジーホールにおいて開催予定の「第7回よくわかる肝臓病セミナー」(事前申し込み不要・参加無料)です。詳しくは滝井病院肝臓病センターウェブサイト(「関西医大 肝臓病センター」で検索)にてお知らせします。

香里病院 **香里病院市民公開講座** QOLを落とす病気をご存じですか？

平成27年10月3日(土)午後2時30分から寝屋川市アルカスホールにおいて、香里病院主催の市民公開講座「QOL(生活の質)を落とす病気をご存じですか？」が開かれました。香里病院高山康夫病院長が座長を務め、第一部では香里病院本館本眼部長が身近な病の一つである白内障をテーマに、術式の変遷や最新の治療についてわかりやすく解説。第二部では、香里病院神崎秀陽顧問が最近認知の広まりつつある子宮内膜症に関して、ライフステージにあった治療法選択の重要性を訴えました。会場に集まった約141名は、真剣に耳を傾けていました。



病気についての理解を深めようと耳を傾ける参加者たち

附属看護専門学校平成27年度学校祭開催 日ごろの勉強疲れを吹き飛ばせ

平成27年10月3日(土)午前10時30分から、附属看護専門学校の平成27年度学校祭が「自然豊か、笑顔いっぱい、看護魂～手と手でつながる笑顔の輪～」をテーマに行われました。

牧野で2回目の開催となった今年の学校祭は、血圧測定・足浴などの看護技術や運動器障害を予防するロコモ体操を紹介する体験・見学コーナーのほか、模擬店、フリーマーケット



模擬店で販売する学生



ダンス、歌を披露する学生

ットを出展。体育館ではダンスや音楽などのステージショーが行われ、学生は普段の学校生活とは異なる時間を思い思いに楽しんでいました。また、今年は地域の老人会や保護者の方々にもご参加いただきました。

平成27年度附属看護専門学校消防訓練 日頃の心がけが命綱

平成27年10月28日(水)午後2時40分から附属看護専門学校において、「平成27年度附属看護専門学校消防訓練」が行われました。この日は学生食堂から出火し、職員による初期消火が失敗したとの想定で訓練がスタート。教室からグラウンドへ、教職員が学生の避難を誘導しました。また、救護所では模擬傷病者の手当ても実施されるなど、訓練に参加した260名全員が真剣に取り組みました。その後は附属看護専門学校牛嶋百合子教務部長の講話を挟んで、学生と教職員の代表者が模擬消火器と消火栓からの放水を体験しました。

最後に枚方東消防署阪出張所消防隊長が「行動が機敏で大変良かった」と講評。「火災に対しては消火・通報・

避難が重要だが、最も大切なのは防火。日頃から意識して欲しい」と述べました。また、今回は大阪府から災害時非常用のアルファ米が提供され、訓練終了後全員で試食しました。



消火栓からの放水を体験する学生

キャンドルサービスを行いました 歌声とまごころの贈りもの

平成27年12月18日(金)午後3時から附属枚方病院において、附属看護専門学校の学生226名が参加してキャンドルサービスが行われました。ろうそくを手にした学生が分かれて各病棟を訪問。「きよしこの夜」を歌いながら病室を回り入院患者さんにメッセージカードを手渡しました。



センターアトリウムは学生の歌声とろうそくが放つ温かな光に包まれた

また、カードを配り終えた後、全員が

1階センターアトリウムに集合。「ジングルベル」などクリスマスソングを合唱し、見物する患者さんたちを楽しませました。

附属看護専門学校岡崎和一学校長・附属枚方病院川村元伸事務部長の挨拶の後、実行委員代表の34期生村本茉莉さんが、「家族など大切な人と離れて過ごす患者さんを元気づけ、少しでも早く回復してもらいたいという願い、そして実習でたくさんのことを学ばせてもらっている患者さんへの感謝の気持ちを込めてキャンドルサービスに臨んだ」と述べました。終了後には、学生にかけ寄ってお礼を言う患者さんの姿も見られ、学生の顔にも満ち足りた表情が浮かんでいました。

平成27年度臨床研修指導医養成講習会開催

平成27年11月13日(金)・14日(土)の2日間、大阪市のホテルコスモスクエア国際交流センターにおいて「平成27年度臨床研修指導医養成講習会」が開催され、学内関係者31名、学外研修協力病院関係者7名の合計38名が受講しました。

臨床研修指導医となるためには、厚生労働省が定めた指針に則った講習会を受講して修了証書を得ることが必須条件となっており、今回の講習会もそれに沿った内容で実施。聖路加国際病院福井次矢病院長、関門医療センター林弘人病院長をアドバイザータスクフォースとして招聘し、ワークショップ形式での全体討議、グループワーク、ミニレクチャーが行われました。受講者は、臨床研修医に対する教育指導の目標や評価法を理解し、基本的な臨床能力を備えた研修医へ育てる力の習得に向けて、講演に聴き入るとともに活発な議論を展開しました。



グループに分かれて全体討議に臨む受講者

初期臨床研修合同説明会を行いました

平成27年11月21日(土)午後3時から枚方学舎1階加多乃講堂において、平成29年度以降の研修医採用に向けた「初期臨床研修合同説明会」が開催されました。友田幸一学長も臨席する中、本学から20名、他大学から11名の合計31名の第4・5学年医学部学生が参加。また、説明会後に開かれた情報交換会にも、引き続き多数の医学生、臨床研修指導医らが出席し、活況を呈しました。



真剣な表情で説明を聴講する医学生

看護師復職支援看護技術トレーニング ―現場復帰の日も遠くない?―

平成27年10月23日(金)附属滝井病院本館7階研修室において、10月30日(金)枚方学舎3階シミュレーションセンターにおいて、いずれも午前9時30分から「看護師復職支援看護技術トレーニング」が行われました。この講習は、潜在看護師の職場復帰支援を目的としたもの。

附属枚方病院看護部櫻井知賀看護副部長の挨拶に続き、伊地知仁美管理師長が高齢化の進行や院内感染予防の徹底、患者さんの安全意識の高まりなど、近年の看護の動向を説明。その後、参加者はシミュレータを使用して、バイタルサインの測定方法や心電図モニターの扱い方などを学びました。休憩を挟んで後半は、静脈血採血と点滴静脈内注射の実践トレーニングが行われました。

標準予防策の考え方や新しい機材の取り扱いなどの知識に触れ、はじめは戸惑いを見せていた参加者も、看護師としての復帰を思い描きながらいきいきとした表情で研修に取り組んでいました。



標準予防策の実践(枚方学舎での講習の様子)

3病院合同看護職教育担当者研修会開催 看護実践支援部門主催

平成27年11月28日(土)・12月12日(土)の2日間、卒後臨床研修センター看護実践支援部門の主催で、附属3病院合同の看護職教育担当者研修会が開催されました。

1回目は、講師に医療法人協和会法人本部青木菜穂子統括部長を招聘して、41名の受講者が「スタッフの成長を促すコミュニケーションスキル」について学びました。2回目は、日本体験学習研究所津村俊充代表理事・所長から「ファシリテータの役割と技法」についての講習を受け、いずれも有意義な研修会となりました。



12月12日に開かれた研修会の様子

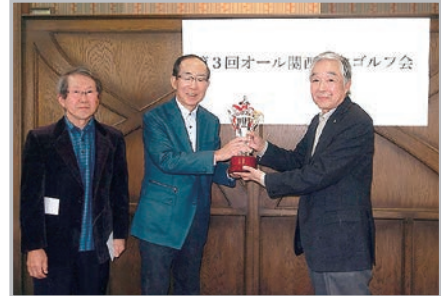
『オール関西医大ゴルフ会』のご案内

関西医科大学同窓会理事 加賀 典雄(39回生)

関西医大同窓会と加多乃会は開学以降、節目の年ごとに記念事業として祝宴と記念講演会を開催し、関西医大人としての絆を深め、誇りと歓びを共に分かち合っていました。

平成25年は創立80周年の節目の年で、しかも枚方新学舎が竣工し、学園が枚方の地に集約された忘れられない年でした。

その記念事業の一環として「関西医大同窓会創立80周年記念ゴルフコンペ」が開催されました。その経緯について少し触れさせていただきますと、当時の同窓会理事会ではゴルフは少数派のため、ゴルフ会の開催には多少のためらいもありました。しかし、祝宴とは異なる顔ぶれの参加が期待できるのではないかとの発言もあり、会長を始め理事の方々から「やってみなはれ!」とのお言葉を頂きました。平成24年11月の定例理事会でのことでした。



大学では理事長の山下敏夫先生の協力も取り付け、各教室にも案内できたことから、平成25年11月4日(月・振休)に枚方CCにて20組80名近い同窓生が集まり盛大な競技会として開催されました。これが『オール関西医大ゴルフ会』の起源です。山下理事長はゴルフに関心が深く、しかも予想を超える多くの同窓生が集ったことに感動され、大学が全面的に協力するから大学の教職員も含め、同窓会の関連事業の一つとしてゴルフ会を育ててほしいとの要請がありました。

一方、同窓会や加多乃会の会員からゴルフ会開催の反響も大きく、その意義が確かめられたことから、理事会から全面的な協力も取り付けることができました。その結果、翌年そして本年と“関西医科大学のゴルフ会”として今日に至っております。

呼称も『オール関西医大ゴルフ会』とし、同窓生はもとより、大学の教職員、各科の先生方、関連病院の方々等を対象とし、兎にも角にも関西医大に関わりのある、また以前に関わった方々(事務、看護、検査等々も含む、但し患者様は除く)にも広く参加して頂けるゴルフ会として設立されました。

開催ゴルフ場は山下理事長のご配慮で、名門の『田辺CC』と決め、毎年秋にどなたでも気軽に参加して頂けるものとしております。

過去3回の開催では南は鹿児島、東は静岡から多数の参加を得ており、年齢層も80歳超から入局1年目の研修医まで実に多彩なものとなっています。しかも組み合わせでは、クラス会として参加希望も取り入れ、また学生時代のクラブ仲間達で、はたまた女性連での参加とか、あらゆるニーズにお応えし組み合わせを決めさせて頂いており、担当者のうれしい悲鳴となっています。

ゴルフという趣味を通して、関西医大人が集い、楽しいひと時を過ごすという主旨ですので、どうかお気軽にご参加ください。

開催予定は同窓会誌「おとづれ」に掲載しています。また、各医局、関係部署に配布され、既参加者には毎年9月初めにご案内させていただきます。

なお、次の開催は平成28年11月6日(日)です。各種お問い合わせ等は同窓会事務局へお願い致します。担当者より折り返しお返事させていただきます。

2015年1月～12月、本学が主催および事務局を務めた学会、同期間中の学会受賞者を紹介します。

学会主催報告

2015 ICJR Hip Japan(ICJR:International Congress for Joint Reconstruction)

■会期 2015年1月16～17日 ■場所 グランフロント大阪

ICJRは、米国にて人工関節領域の研究、教育を目的に2010年に設立され、2015年には米国各地及び日本以外にもフランス、中国で開催されています。日本では2年前福岡にて人工膝関節部門が開催されました。日本での開催は今回が2回目となり、米国・英国から2名ずつの講師と日本の演者により計37の講演がなされ熱心な議論が行われました。講演は全てビデオ記録され、ICJRホームページより閲覧可能になっており教育効果を上げる仕組みになっています。

【2015 ICJR Hip Japan 会長／整形外科科学講座 飯田 寛和】



日本ハイパーサーミア学会 第32回大会

■会期 2015年9月4～5日 ■場所 KKRホテル大阪

平成27年9月4日、5日に日本ハイパーサーミア学会第32回大会をKKRホテル大阪で開催しました。放射線科学講座が事務局となり、大会長は播磨洋子准教授、実行委員長を宇都宮啓太講師が務めました。各1題ずつの招聘講演と特別講演、5つのシンポジウム、2つのワークショップ、教育講演、市民公開講座を行いました。また、一般演題は総数114題で口演、ポスター発表を行い、盛会のうちに終えることができました。

【日本ハイパーサーミア学会第32回大会会長／放射線科学講座 播磨 洋子】



第70回日本病理学会近畿支部学術集会

■開催日 2015年9月26日 ■場所 関西医科大学校方学舎

■テーマ 泌尿器生殖器腫瘍

第70回日本病理学会近畿支部学術集会は、2015年9月26日に関西医科大学病理学第二講座が世話人を担当し、加多乃講堂に於いて行われた。当日は近畿全域より日本病理学会会員が本学に参集し、本学術集会のメインテーマである泌尿生殖器疾患を中心に、終日にわたり活発な議論が展開された。

【日本病理学会・第70回近畿支部学術集会世話人／病理学第二講座 螺良愛郎】



第56回日本組織細胞化学会総会・学術集会

■会期 2015年10月3～4日 ■場所 関西医科大学校方学舎

■テーマ 組織化学のモデルシフト

日本組織細胞化学会は、化学物質や化学反応を顕微鏡下に観察する手技の開発とその観察結果を扱う学会で、学会設立や発展には本学の教員が大きく貢献してきました。今回の学術集会では、本学の病態分子イメージングプロジェクトや大学院講座と共催のシンポジウム、綜研機器デモを兼ねた体験型企業展示など、非学会員の多数の本学関係者にも無料参加して頂きました。同窓会・加多乃会からも温かいご援助を頂き、学会を活性化させることができました。

【日本組織細胞化学会会長／解剖学第一講座 山田 久夫】



第27回腎とフリーラジカル研究会

■開催日 2015年10月10日 ■場所 関西医科大学校方学舎

本研究会は、腎臓に関する活性酸素・フリーラジカルの研究を行い、医学・薬学の進歩発展を図ることを目的として1回/年開催されています。今回は特別講演を2演題企画しました。演題のタイトルは岡山大学大学院小児医科学講座塚原宏一教授による「小児疾患における活性酸素の関与」と Department of Pediatrics, Kaohsiung Chang Gung Memorial Hospital and Chang Gung University College of MedicineのYou-Lin Tain教授による「The Use of Melatonin in Pediatric Disorders: More than just an Antioxidant?」でした。活発な議論が交わされ、盛会のうちに終了することができました。

【第27回腎とフリーラジカル研究会会長／小児科学講座 金子 一成】



第33回日本脳腫瘍学会学術集会

■会期 2015年12月6～8日 ■場所 グランドプリンスホテル京都

■テーマ 挑戦とその検証

本学会は悪性脳腫瘍の治療、研究に携わる医師、研究者の日本最大の学会で、年に1回、学術集会が開かれ、毎回、最先端の悪性脳腫瘍治療、研究の発表とディスカッションがおこなわれています。今年は、国内外より9人の演者を招聘し、小児悪性脳腫瘍、抗腫瘍免疫、脳腫瘍の新WHO分類をトピックスとして特別講演2題、招待講演6題、教育講演2題、ランチョンセミナー6題の合計16の講演を組み込みました。その他、一般口演44題、ポスター194題の発表がおこなわれ、活発な議論がおこなわれました。

【日本脳腫瘍学会会長／脳神経外科学講座 浅井 昭雄】





第28回日本内視鏡外科学会総会

■会期 2015年12月10～12日 ■場所 大阪国際会議場、リーガロイヤルホテル大阪

■テーマ 技術革新と人の技の融合：内視鏡手術の飛躍に向けて

日本内視鏡外科学会は、消化器外科医を中心に泌尿器科医や産婦人科医など会員数12,772名の領域横断的学会です。第28回総会では、内視鏡手術にかかわる技術革新と外科医の技をテーマに、522セッションから構成され、総計3,256の演題発表があり、延べ6,009名の参加を得ました。また医工連携企画では、近畿経済産業局の協力も得て、機器開発に有用なシーズを持つ企業とニーズを持つ外科医の間で熱い討論が行われました。最終日には、学会主催のプレスセミナーも開催されました。

【日本内視鏡外科学会会長／腎泌尿器外科学講座 松田 公志】



学会受賞情報

The Best Paper Award
International Conference on Biotechnology and Bioengineering 2015

物理学教室 影島 賢巳 教授

■テーマ Rheological Analysis of Cultured Cell/ Matrix Sheet for Regenerative Medicine Using Novel Magnetic Indenter

■授与学会 International Conference on Biotechnology and Bioengineering 2015



The Best Paper Award
The 11th International Symposium on Management Engineering

数学教室 川浦 孝之 助教

■テーマ Fuzzy autocorrelation model with fuzzy confidence intervals and its evaluation

■授与学会 The 11th International Symposium on Management Engineering



第29回日本静脈経腸栄養学会学術集会フェロースHIP賞

外科学講座 海堀 昌樹 准教授

■テーマ 肝細胞癌手術後再発および生存に対する術前骨格筋脂肪化の意義～筋肉の質が重要～

■授与学会 第29回日本静脈経腸栄養学会学術集会



第58回日本腎臓学会学術総会 優秀演題賞

小児科学講座 木全 貴久 講師

■テーマ 特発性ネフローゼ症候群における制御性T細胞と細胞傷害性Tリンパ球抗原-4の関与

■授与学会 第58回日本腎臓学会学術総会



第22回日本鼻科学会賞

耳鼻咽喉科・頭頸部外科学講座 神田 晃 講師

■テーマ Activated But Not Resting Eosinophils Promote Airway Inflammation Through Eosinophil-derived IFN- γ

■授与学会：日本鼻科学会



JJR Excellent Reviewer Award in 2014

放射線科学講座 池田 耕士 講師

■受賞理由 学会誌の査読員として遅延なく高頻度に査読したことに対する評価

■授与学会 第72回日本医学放射線学会



日本放射線腫瘍学会第28回学術大会 優秀教育講演者賞

放射線科学講座 中村 聡明 講師

■テーマ 膀胱癌の放射線治療

■授与学会 日本放射線腫瘍学会第28回学術大会



第29回日本泌尿器内視鏡学会総会 総会賞

腎泌尿器外科学講座 井上 貴昭 助教

■テーマ TUL術中における散乱線空間線量と術者放射線被曝の実態とその防護の工夫

■授与学会 第29回日本泌尿器内視鏡学会総会



日本泌尿器内視鏡学会 第5回阿曾賞

腎泌尿器外科学講座 吉田 健志 助教

■テーマ 内視鏡手術の技術分析とナビゲーション開発

■授与学会 日本泌尿器内視鏡学会



第24回日本小児泌尿器科学会総会・学術集会 学会賞(症例報告部門)

小児科学講座 駿田 竹紫 病院助教

■テーマ PKD1複合ヘテロ接合体による重症上染色体優性遺伝型多発性嚢胞腎の新生児例

■授与学会 第24回日本小児泌尿器科学会総会・学術集会



第24回日本小児泌尿器科学会総会・学術集会 学会賞(臨床研究部門)

小児科学講座 山内 壮作 病院助教

■テーマ 腎瘢痕形成症例に見られる腎尿細管障害の発症機序の検討

■授与学会 第24回日本小児泌尿器科学会総会・学術集会



第26回日本夜尿症学会学術集会 最優秀奨励賞

小児科学講座 加藤 正吾 研究医員

■テーマ 心理的ストレスが昼夜の尿量逆転を引き起こす：二次性夜尿症の病因に関する動物実験

■授与学会 第26回日本夜尿症学会学術集会



2014年度日本毒性病理学会JTP奨励賞

病理学第二講座 榎本 祐子 大学院生

■テーマ Green Tea Extract-induced Acute Hepatotoxicity in Rats

■授与学会 第31回日本毒性病理学会



2014年度日本毒性病理学会JTP奨励賞

病理学第二講座 木下 勇一 大学院生

■テーマ Similarity of GATA-3 Expression between Rat and Human Mammary Glands

■授与学会 第31回日本毒性病理学会





教職員メディア情報

新聞・雑誌等の取材を受け記事が掲載された、あるいはテレビ・ラジオ等に出演した教職員を紹介します。

(主に平成27年10月1日～12月31日 ※判明分のみ)

形成外科学講座 覚道 奈津子 助教ほか	日本経済新聞 (2015.10.15夕刊)ほか	酸素の少ない状況下でヒト脂肪幹細胞の増殖が促進されるメカニズムを解明したこと、およびその研究論文が米科学誌「PLOS ONE」に掲載されたことが紹介されました。
内科学第二講座 山本 克浩 講師	毎日新聞 (2015.11.8朝刊)	11月7日(土)附属滝井病院において開催された「世界糖尿病デーフェスタ2015」が紹介され、同イベントでの講演内容が紹介されました。
眼科学講座 高橋 寛二 教授	「NHKチョイス@病気になったときVol.5 寝たきりにならない！健康寿命を延ばす」 (2015.11.13発売)	過去に出演した「NHKチョイス@病気になったとき」8月22日(土)放送分の内容が、『網膜剥離4つの原因と治療』として編集され、掲載されました。
眼科学講座 高橋 寛二 教授	NHK Eテレ 「チョイス@病気になったとき」 『まとめスペシャル 注意したい目の病気』 (2015.11.14)	加齢黄斑変性や網膜はく離について解説した過去の同番組が再放送されました。
附属生命医学研究所 神経機能部門 小早川 高 研究員ほか	朝日新聞 (2015.11.20朝刊)ほか	恐怖を引き起こす“匂い”を開発し、恐怖の制御メカニズムと制御細胞を発見した論文が世界三大科学誌「Cell」に掲載されたことが紹介されました。
健康科学教室 木村 穰 教授	関西テレビ 「ゆうがたLIVE ワンダー」 (2015.11.20)	ダイエットを成功させるためのポイントについてコメントしました。
精神神経科学講座 織田 裕行 助教	毎日新聞 (2015.11.24夕刊)	性同一性障害者が刑務所へ収容された際に性差が考慮されない現状についてのコメントが掲載されました。
小児科学講座 小林 穂高 研究員	毎日新聞地方版 (2015.11.27)	2011年に本学が名張市と取り交わした寄付講座設置協定に基づく名張市立病院・小児発達支援外来の取り組みが紹介され、本学から派遣された小林研究員のコメントが掲載されました。
内科学第三講座 岡崎 和一 教授	読売新聞 (2015.11.27朝刊)	連載企画「医療ルネサンス」において、完治が困難な自己免疫疾患・IgG4関連疾患を治療中の患者さんの体験談が掲載され、診療にあたった医師としてのコメントが紹介されました。
健康科学教室 木村 穰 教授	読売新聞 (2015.12.3夕刊)	連載企画「医なび」において、急激な温度変化が原因で心肺機能が停止する“ヒートショック”が取り上げられ、解説およびコメントが掲載されました。
形成外科学講座 森本 尚樹 講師	朝日新聞 (2015.12.11朝刊)ほか	「先天性巨大色素性母斑」の新しい治療法について文部科学省で記者会見し、治療法の概要や優位点、今後の臨床研究スケジュールなど会見で解説した内容が紹介されました。

*このコーナーは主要な放送局、新聞、雑誌の掲載情報が対象ですが、研究成果に関する記事は、その限りではありません。

編集後記

今回、本誌を手にして「あれ？何か違う？」と思われる方もいらっしゃるのではないのでしょうか。

2016年を迎え、広報誌も新しいデザインを採用しております。より見やすく・親しみをもてるようになったと感じていただければ幸いです。

また、今回から新たに「学会主催報告・学会賞受賞情報」をとりまとめて紹介することになりました。(p.29、30)

情報の収集にあたりご協力賜りました各講座・教室の先生方、また快くお写真を提供して下さった受賞者の皆さまにあらためて感謝申し上げます。

(こ)

関西医科大学広報は、本学HPでも閲覧できます

この広報誌は創刊号から最新号まで、本学HPでも公開しています。過去の記事を閲覧したい場合は、本学HPトップページから右下のリンク「関西医科大学広報」をクリックしてください。

ご意見・ご感想をお待ちしています

「関西医科大学広報」についてのご意見・ご感想は、下記奥付に記載してある連絡先に郵送いただくか、メールアドレス、電話番号までお願いします。皆様のご意見をお待ちしています。

関西医科大学広報 Vol.32

発行 学校法人 関西医科大学

編集 法人事務局総務部広報課

〒573-1010 大阪府枚方市新町2-5-1 TEL 072-804-0101(代表)
FAX 072-804-2547

http://www.kmu.ac.jp/

E-mail: kmuinfo@hirakata.kmu.ac.jp

平成28年1月30日(土)発行